

天童市建設工事検査技術基準

平成10年4月1日

最終改正：平成26年4月1日

（目的）

第1条 この基準は、天童市建設工事検査規程（平成10年市訓令第7号。以下「検査規程」という。）第6条の規定に基づき建設工事（検査規程第1条に規定する建設工事をいう。以下同じ。）の検査（以下「検査」という。）に必要な技術的事項を定め、もって検査の適切な実施を図ることを目的とする。

（検査の内容）

第2条 検査は、当該建設工事の出来形を対象とし、実地において行うものとする。

2 検査員（検査規程第3条第1項の検査員をいう。以下同じ。）は、契約図書（天童市建設工事検査要領第2条の契約図書をいう。以下同じ。）に基づき建設工事の実施状況、出来形、品質及び出来栄えについて適否の判定を行うものとする。

3 中間検査で確認した部分については、完成検査、一部完成検査及び出来形検査時の確認を省略することができる。ただし、その後の現場状況の変化、受注者の管理状況等から再度確認する必要がある場合は、この限りでない。

（実施状況の検査）

第3条 建設工事の実施状況の検査は、履行状況、施工状況、工程管理、安全管理及び施工体制の工事管理状況に関する各種の記録（写真及びビデオによる記録を含む。以下「各種の記録」という。）と契約図書とを対比し、別表第1に掲げる事項に留意して行うものとする。

（出来形の検査）

第4条 出来形の検査は、位置、出来形寸法及び出来形管理に関する各種の記録と契約図書とを対比し、別表第2に定める基準に基づき行うものとする。この場合において、外部からの観察、出来形図、写真等により当該出来形の適否を判定することが困難なときは、検査員は、天童市建設工事請負契約約款（平成9年市告示第18号）第33条第2項の規定により工事目的物を破壊して検査を行うものとする。

（品質の検査）

第5条 品質の検査は、品質及び品質管理に関する各種の記録と契約図書とを対比し、別表第2に定める基準に基づき行うものとする。この場合において、外部からの観察、品質管理の状況を示す資料、写真等により当該品質の適否を判定することが困難なときは、検査員は、天童市建設工事請負契約約款第33条第2項の規定により工事目的物を破壊して検査を行うものとする。

(出来栄えの検査)

第6条 出来栄えの検査は、仕上げ面、通り、すり付け等の程度及び全般的な外観について目視により行うものとする。

(建設工事成績評定)

第7条 検査員は、検査を完了したときは、天童市建設工事成績評定要領に基づき建設工事成績の評定を行うものとする。

別表第 1 （第 3 条関係）

建設工事の実施状況の検査留意事項

項目	関係書類	内容
契約書等の履行状況	契約書及び仕様書	指示、承諾、協議事項等の処理内容、支給材料、貸与品及び工事発生品の処理状況その他契約書等の履行状況（他に掲げるものを除く。）
建設工事の施工状況	施工計画書、工事打合せ簿その他関係書類	工法研究、施工方法及び手戻りに対する処理状況、現場管理状況及び関連工事との調整
工程管理	実施工程表及び工事打合せ簿	工程管理の状況及び進捗内容
安全管理	契約図書及び工事打合せ簿	安全管理状況、交通処理状況及び措置内容並びに関係法令の遵守状況
施工体制	施工計画書及び施工体制台帳	適正な施工体制の確保状況

備考 関連工事とは、密接に関係する別契約の建設工事をいう。

別表第 2（第 4 条、第 5 条関係）

出来形、品質検査基準

1 出来形検査基準（建築、電気設備、機械設備に関する建設工事以外）

工種			検査内容	検査密度
共通	共通 的 工 種	矢板工	基準高、変位、根入長、延長	100メートルにつき1箇所以上
		法枠工	厚さ、法長、間隔、幅、延長	100メートルにつき1箇所以上
		吹付工 植生工		
	基礎工		基準高、根入長、偏心量	1基又は1目地間当たり1箇所以上
	石、ブロック積（張）工		基準高、法長、厚さ、延長	100メートルにつき1箇所以上
	一般舗装工	路盤工	基準高、幅、厚さ	基準高及び幅は200メートルにつき1箇所以上、厚さは1キロメートルにつき1箇所以上
		舗装工	基準高、幅、厚さ、横断勾配、平坦性	基準高及び幅は200メートルにつき1箇所以上、厚さは施工面積3,000平方メートルにつき1箇所以上コアーによる検査
	地盤改良工		基準高、幅、厚さ、延長	200メートルにつき1箇所以上
	コンクリート擁壁、水路工、側溝工		基準高、延長、幅、厚さ、高さ	100メートルにつき1箇所以上
土工		基準高、幅、法長	200メートルにつき1箇所以上	
河川	築堤護岸		基準高、幅、厚さ、高さ、法長、延長	200メートルにつき1箇所以上
	浚渫（川）		基準高、幅、深さ、延長	
	樋門、樋管		基準高、幅、厚さ、高さ、延長	水門、樋門、樋管は本体部、呑口部につき構造図の寸法表示箇所の任意部分とし、函渠は同種構造
	水門			

			物ごと 2 箇所以上
砂防	砂防ダム	基準高、幅、厚さ、延長	構造図の寸法表示箇所の任意箇所（3 箇所以上）
	流路	基準高、幅、厚さ、高さ、延長	200メートルにつき1箇所以上
	斜面对策	基準高、幅、厚さ、高さ、延長	100メートルにつき1箇所以上
道路	道路改良	基準高、幅、厚さ、高さ、延長	100メートルにつき1箇所以上
	橋梁下部	基準高、幅、厚さ、高さ、支間（スパン）長、変位	スパン長はスパンごと その他は同種構造物ごとに1基以上につき構造図の寸法表示箇所の任意部分
	鋼橋上部	部材寸法、基準高、支間長、中心間距離、キャンバー	部材寸法は主要部材について、寸法表示箇所の任意部分 その他は、5 径間未満は 2 箇所以上、5 径間以上は 2 径間につき 1 箇所以上
	コンクリート橋上部工	部材寸法、基準高、支間長、中心間距離、キャンバー	部材寸法は主要部材について、寸法表示箇所の任意部分 その他は、5 径間未満は 2 箇所以上、5 径間以上は 2 径間につき 1 箇所以上
	落橋防止装置工（既設構造物に設置する場合）	アンカーボルト定着長	超音波探傷器による検査、受注者の施工管理資料の書面検査、監督職員が実施した確認状況の点検を組み合わせ全数実施
公園緑地	植栽工	樹高、幹周、枝張（葉張）	適宜決定する。
	その他構造物	工種に応じ、基準高、幅、厚さ、高さ、深さ、法長、長さ等	同種構造物ごとに適宜決定する。

用 排 水 路	開水路	基準高、幅、厚さ、高さ	200メートルにつき1箇所以上
	サイホン		
	暗渠	中心線のズレ、延長（スパン長）	適宜決定する。
	水路トンネル	支保工間隔、幅、覆工厚さ、中心線のズレ、延長	適宜決定する。
用 排 水 路		基準高、幅、高さ	100メートルにつき1箇所以上
	管水路（R C管、P C管、	基準高、埋設深	200メートルにつき1箇所以上
	鋳鉄管、強化	中心線のズレ、ジョイント間隔、ゴム輪の位置、延長	適宜決定する。
	プラスチック複合管、硬質塩ビ管、鋼管等）		
ほ 場 整 備	表土扱い	厚さ	1圃区当たり1耕区以上
	基盤、田面整地	基準高（指定したとき）、均平度	1圃区当たり1耕区以上
	畦畔	幅、高さ	1,000メートルにつき1箇所以上
	道路工（砂利道）幅	幅、厚さ、延長	1,000メートルにつき1箇所以上
暗 渠 排 水	吸水渠	布設深、間隔、延長	10本につき1本の割合で、上、下流端の2箇所測定
	集水渠（支線）、導水渠（幹線）	布設深、延長	500メートルにつき1箇所以上
農 用 地 造 成	耕土掘り起こし	耕起深	1ヘクタール当たり1点以上
	テラス（階段畑）	幅（指定したとき）、耕起幅（指定したとき）、側溝幅、側溝高さ（指定したとき）、法勾配	テラス延長1,000メートルにつき1箇所以上
	道路工（耕作道）	幅、厚さ、側溝幅、側溝高さ（指定したとき）	1,000メートルにつき1箇所以上

	土壌改良	P H測定（指定したとき）	1 0 ヘクタール当たり 1 箇所以上
	改良山成	基準高（指定したとき）、法勾配（指定したとき）	基準高は 1 ヘクタール当たり 1 箇所、法勾配 1, 0 0 0 平方メートル当たり 1 箇所以上
頭 首 工	本体	基準高、幅、厚さ、高さ、長さ	構造図の寸法標示箇所を適宜測定
	護床ブロック（異形ブロック）	基準高、面積	施工面積 5 0 0 平方メートルにつき 1 箇所以上
た め 池	堤体	基準高、堤幅、法長、延長	施工延長 1 0 0 メートルにつき 1 箇所以上
	洪水吐	基準高、幅、厚さ、高さ、中心のズレ、スパン長、延長	施工延長 5 スパンにつき 1 箇所以上
	樋管	基準高、幅、厚さ、高さ、中心のズレ、延長	施工延長 5 0 メートルにつき 1 箇所以上
その他の構造物		工種に応じ、基準高、幅、厚さ、高さ、深さ、法長、長さ等	同種構造物ごとに適宜決定する。

備考

- 1 検査は、実地において行うことを原則とするが、特別の理由により実施できない場合及び当該建設工事の主体とならない工種については、管理図、出来形図、写真、ビデオ又は監督員の確認資料、品質証明書等により検査することができる。
- 2 施工延長とは、施工延べ延長をいう。

2 品質検査基準（建築、電気設備、機械設備に関する建設工事以外）

工種		検査内容	検査方法
共通	材料	品質及び形状は、契約図書と対比して適切か	観察又は品質証明により検査する。 場合により実測する。
	基礎工	支持力は、契約図書と対比して適切か 基礎の位置、上部との接合等は適切か	主に施工管理記録及び観察により検査する。 場合により実測する。

	土工		土質、岩質は、契約図書と一致しているか 支持力又は密度は、契約図書と対比して適切か	主に施工管理記録及び観察により検査する。 場合により実測する。
	無筋、鉄筋コンクリート		コンクリートの強度、スランプ、塩化物総量、アルカリ骨材反応対策、水セメント比等は、契約図書と対比して適切か	主に施工管理記録及び観察により検査する。 場合により実測する（シュミットハンマー等で確認）。
	石、ブロック積（張）工		胴コン、裏コンのてん充填程度、水密性を検査する（必要に応じて実施する。）。	天端又は法面に削孔し、注水試験を行う（削孔深さは、法面ではコンクリート厚さのマイナス5センチメートル程度、天端では1メートル程度とする。）。
	その他のコンクリート構造物		コンクリートのてん充填程度、水密性を検査する（必要に応じて実施する。）。	天端又は法面に削孔し、注水試験を行う（削孔深さは、コンクリート厚さの70パーセント程度又は1メートル程度とする。）。
	構造物の機能			構造物又は附属設備等の性能は契約図書と対比して適切か主に実際に操作し検査する。
道路	舗装	路盤工	路盤材料の合成粒度は、契約図書と対比して適切か 支持力又は締固め密度は、契約図書と対比して適切か	主に施工管理記録及び観察により検査する。 場合により実測する。
		アスファルト舗装工	アスファルト使用量、骨材粒度、密度及び舗設温度は、契約図書と対比して適切か	主に既に採取されたコアー及び現地の観察並びに施工管理資料により検査する。 場合により実測する。

3 出来形、品質検査基準（建築、電気設備、機械設備に関する建設工事）

出来形の検査方法は、契約図書及び施工計画書で約束された測定項目、規格値、測定頻度及び測定方法を参考として、検査員が建物の規模に応じて検査頻度を定め、工事記録関係図書、工事写真、場合によっては実測により確認するものとする。

品質の検査方法は、契約図書及び施工計画書で約束された仕上がり状態、機能、性能、所要の状態など、具体的に記載された施工の手順とその管理について、工事記録関係図書、工事写真等により確認し、場合によっては当該品質を実測により確認するものとする。

出来栄えの検査方法は、仕上がり状態、納まり、形状、配置、関連工事（密接に関係する別契約の建設工事をいう。）との調和、全体的美観等について、主に観察により確認し、場合によっては実測により確認するものとする。

(1) 建築に関する建設工事

検査対象			検査項目	備考
材料	品質		数量、規格及び性能が契約図書、法令等に適合していること。	
仮設工事	出来形	仮設材料、仮設物	位置、規模、構造	
	品質		所要の状態	
土工事	出来形		基準高、締固め工法	
	品質		所要の締固め	
地業工事	出来形	杭地業	基準高、根入れ長さ、偏心量	
		砂利地業	基準高、締固め工法	
		均 し コ ン ク リート	基準高	
	品質		所要の支持力	
			継手部の溶接	
鉄筋工事	出来形	鉄筋加工	加工寸法、全長	
		組立て	かぶり厚さ、所定の位置	
	品質		超音波探傷試験	
			鉄筋の表面が所要の状態	
コンクリート工事	出来形	部材の仕上がり	位置、断面寸法（型枠精度も確認）	
		コンクリートの仕上がり	平坦性、仕上げ材による精度	

	品質		所要の強度、構造耐力、耐久性、耐火性	
			密実な表面状態（ジャンカ等の有無確認）	
鉄骨工事	出来形	部材加工	加工精度	
		製品	組立て精度	
		建て方	建て方精度	
	品質		構造耐力、耐久性、耐火性	
			定着部、接合部	
コンクリートブロック、ALCパネル、押出成形セメント板工事	出来形	コンクリートブロック部材の仕上がり	位置、断面寸法	
		コンクリートブロック各部の仕上がり	平坦性	
		ALCパネル、押出成型、セメント板部材の位置	水平位置、相互の目違い、通り	
		ALCパネル、押出成型、セメント板部材の仕上がり	壁板：相互の目違い 床板：不陸	
	品質		構造耐力、耐久性、耐火性	
防水工事	出来形		所定の形状及び寸法	
	品質		漏水が無いこと。	
石工事	出来形		所定の形状及び寸法	
	品質		取付けが所要の状態であること。	
タイル工事	出来形		所定の形状及び寸法	
	品質		有害な浮きが無いこと。	
木工事	出来形		所定の形状及び寸法	
	品質		固定、継手及び定着、仕上がり面の状態	
屋根及びとい工事	出来形		所定の形状及び寸法	
	品質		耐風圧性、振動、漏水が無いこと。	

金属工事	出来形		所定の形状及び寸法	
	品質		堅固な取付け、所要の仕上がり状態	
左官工事	品質		所定の塗り厚、所要の状態、浮き	
建具工事	出来形		所定の形状及び寸法	
	品質		耐風性、気密性、水密性、所定の性能、所要の耐震	
カーテンウォール工事	出来形		所定の形状及び寸法	
	品質		仕上がり状態、耐風圧性、耐震性、水密性、気密性、耐火性、熱伸縮追従性、遮音性、断熱性	
塗装工事	品質		仕上がり面、耐久性、耐火性	
内装工事	品質		仕上がり状態、不陸、床鳴り、断熱性	
ユニット及びその他の工事	出来形		材種、形状、寸法	
	品質		取付け方法、工法、仕上がり状態	
排水工事	出来形	側塊、排水枡、配水管	所定の寸法	
	品質	側塊、排水枡、配水管	沈下、漏水、水がたまらないこと。	
舗装工事	出来形	路床、路盤、舗装、側溝	所定の寸法	
	品質	路床、路盤、舗装、側溝	仕上がり状態、所要の状態	
植栽及び屋上緑化工事	出来形	植栽基盤、樹木	所定の状態	
	品質	植栽基盤、樹木	所要の性質、状態	
留意事項				
<p>建築に関する建設工事に附帯する電気設備、機械設備工事は、（２）電気設備に関する建設工事、（３）機械設備に関する建設工事の内容に準ずる。</p>				

(2) 電気設備に関する建設工事

検査対象		検査項目	備考
ア 電力設備工事 イ 受変電設備工事 ウ 静止形電源設備	機材	① 電線、ケーブル、電線保護物類、配線器具材料、その他工事材料等の数量、規格、性能	契約図書、法令等に適合していること。

工事 エ 発電設備工事 オ 通信、情報設備工事 カ 中央監視制御設備工事 キ 医療関係施設		② 各電気設備機器の数量、型式、構造、寸法、性能、機能	
	施工	① 各電気設備の保安、性能及び機能に係る設計主旨並びに設計意図の把握状況 ② 電線、ケーブル、電線保護物類、配線器具材料等の布設、取付け等の工法、施工要領、所要の状態 ③ 各電気設備機器の据付方法、要領、精度、所要の状態 ④ 仕上がり状態	契約図書、法令等に適合していること。 施工計画書に基づき施工していること。
	試験	① 機材の単体及び施工単位での機能、性能 ② 各電気設備の単位システム毎の機能及び性能 ③ 総合的な機能及び性能	契約図書、法令等に適合していること。 施工計画書に基づき施工していること。
留意事項 1 電気設備に関する建設工事に附帯する仮設工事、土工事、地業工事、コンクリート工事及び左官工事については、（１）建築に関する建設工事の内容に準ずる。 2 電気設備に関する建設工事に附帯する機械設備工事については、（３）機械設備に関する建設工事の内容に準ずる。			

(3) 機械設備に関する建設工事

検査対象		検査項目	備考
ア 配管、保温、塗装等工事 イ 空気調和設備工事 ウ 自動制御設備工事	機材	① 配管及び配管附属品、ダクト及びダクト附属品、保温材、塗装、防錆材、その他工事材料等の数量、規格、性能 ② 各機械設備機器の数量、型式、構造、寸法、性能、機能	契約図書、法令等に適合していること。

エ 給排水衛生設備工事 オ ガス設備工事 カ さく井設備工事 キ 浄化槽設備工事 ク 昇降機設備工事 ケ 機械式駐車場設備工事 コ 医療ガス設備工事	施工	① 各機械設備の保安、性能及び機能に係る設計主旨、設計意図の把握状況 ② 配管、ダクト、その附属品の布設、取付けの工法、施工要領、所要の状態 ③ 保温、塗装、防錆等の工法、施工要領、所要の状態 ④ 各機械設備機器の据付方法、要領、精度、所要の状態 ⑤ 仕上がり状態	契約図書、法令等に適合していること。 施工計画書に基づき施工していること。
	試験	① 機材の単体及び施工単位での機能及び性能 ② 各機械設備の単位システム毎の機能及び性能 ③ 総合的な機能及び性能	契約図書、法令等に適合していること。 施工計画書に基づき施工していること。
留意事項 1 機械設備に関する建設工事に附帯する仮設工事、土工事、地業工事、コンクリート工事及び左官工事については、（１）建築に関する建設工事の内容に準ずる。 2 機械設備に関する建設工事に附帯する電気設備工事については、（２）電気設備に関する建設工事の内容に準ずる。			